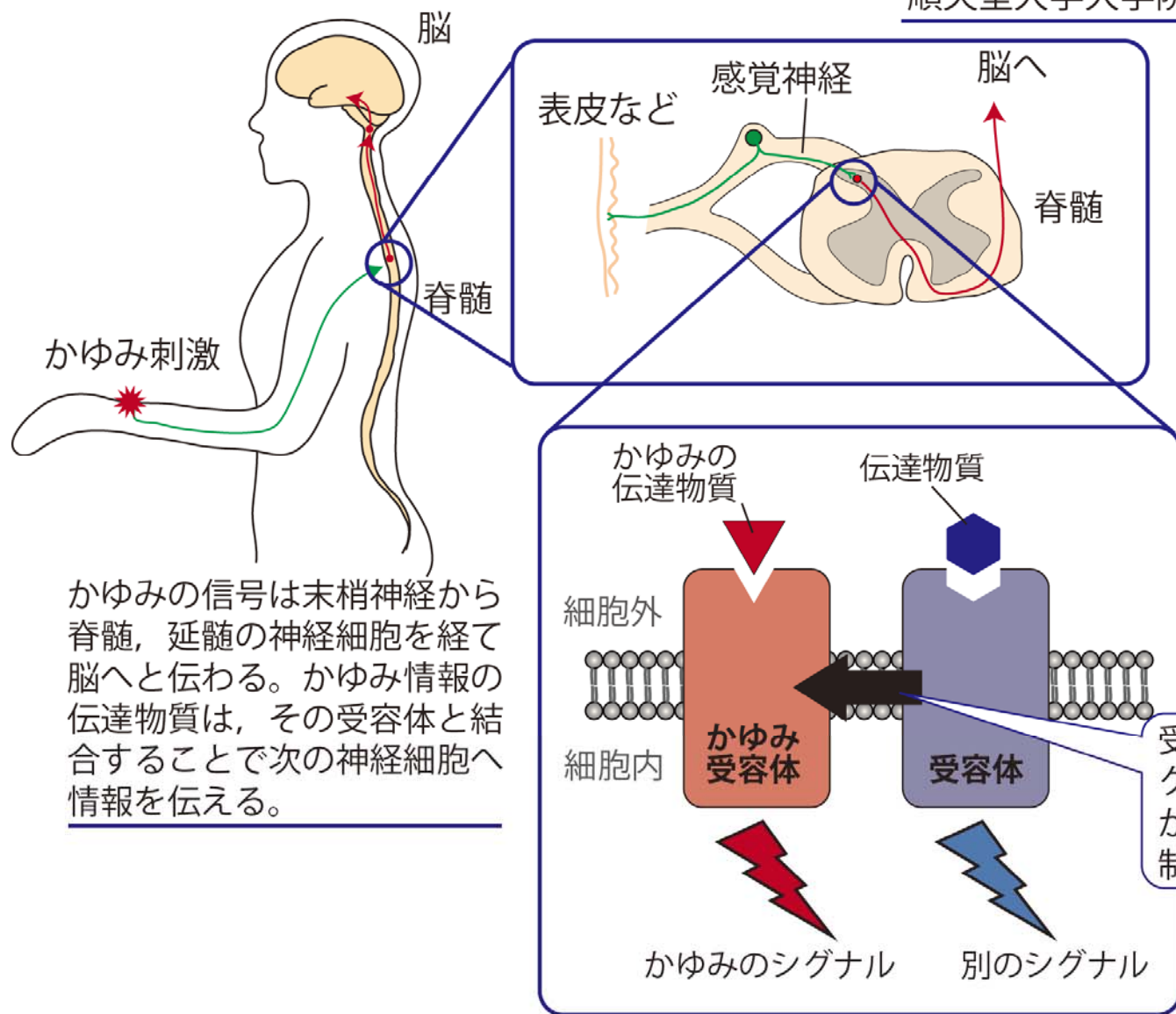


Gタンパク質共役型受容体のヘテロ複合体形成に着目したかゆみ伝達の制御

順天堂大学大学院医学研究科 細胞・分子薬理学

櫻井 隆、上窪裕二



かゆみの信号は末梢神経から脊髄、延髄の神経細胞を経て脳へと伝わる。かゆみ情報の伝達物質は、その受容体と結合することで次の神経細胞へ情報を伝える。

かゆみの信号を伝える受容体をはじめとする細胞膜受容体は、他の受容体と相互作用することでシグナル伝達を制御している。私たちは、受容体同士の複合体形成と機能的な相互作用に注目し、難治性かゆみの制御方法に関する創薬を目指して研究を行っている。

受容体同士の相互作用によるシグナル伝達の制御。かゆみシグナルを増強したり抑制したりしている。